



## 活動日誌

## 1998年(平成10年)

3月 『LAGUNA汽水域研究』第5号発行.

4月16日 島根大学の研究者を中心としたパイプ潮通し前の調査結果の報告会『本庄水域はいま?』で、徳岡隆夫センター長、高安克己教授、國井秀伸助教授らが研究報告をおこなう(島根県民会館にて).

5月15日 第26回汽水域研究懇談会

北陸先端科学技術大学院大学・上野博芳氏が「海洋の流動シミュレーション—日本海モデルと中海潮通しパイプ—」と題して話題提供. 参加者19名(内学外者7名).

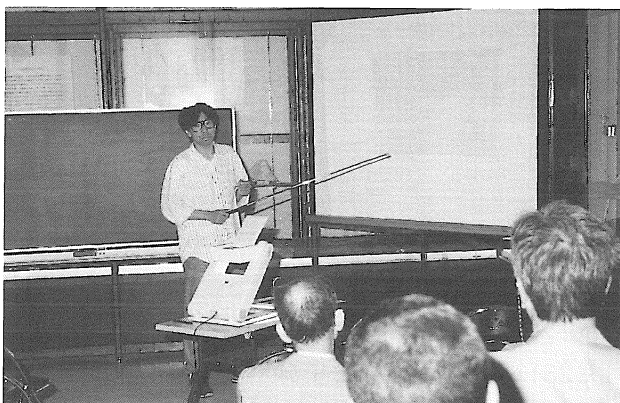


写真1. 第26回懇談会で話題提供する上野博芳氏(1998年5月15日).

6月19日 公開国際ミニシンポジウム『汽水域における景観の保全とその利用』を汽水域研究センターが主催(共催:国際生態学会日本支部). 高安教授による「地質学的にみた汽水域の景観変遷」、國井助教授による「オランダ汽水紀行—オランダ王立生態学研究所(NIOO)滞在記—」ほか、国外研究者の講演がおこなわれた.

7月9日, 14日, 16日, 21日, 23日 公開講座『斐伊川探訪—その歴史と自然—』を仁多郡仁多町カルチャープラザ仁多において実施. 高安教授による「斐伊川流域の自然の成り立ち」、國井助教授による「田んぼの生態学」、竹広文明助手・杉原清—日本考古学協会会員による「たたら歴史を探る」など、6名のセンター教官・研究員などが講演した. 20名が受講.

9月1日 大塚泰介氏が汽水域研究センター非常勤研究員として着任.



写真2. 公開講座『斐伊川探訪—その歴史と自然—』で講演する高安教授(1998年7月9日).



写真3. 第27回懇談会で話題提供する徳岡センター長(1998年9月18日).

9月18日 第27回汽水域研究懇談会

徳岡センター長、山口啓子研究員ほか、8名の学内教官・研究員および中海漁協・門脇義雄氏が『本庄工区の「潮通しパイプ」の影響について』をめぐる9本の発表をおこなう. 参加者63名(内学外者33名).

9月29日 「汽水域の環境特性とその変動要因に関する調査研究」と題して申請した平成10年度創造開発研究経費が採択され、竹広助手が連合王国エクセター大学低温地研究センターに出張(11月29日まで).

10月10日 「汽水域の環境特性とその変動要因に関する調査研究」と題して申請した平成10年度創造開発研究経費が採択され、高安教授がアメリカ合衆国サウスカロライナ大学バルーク研究所、連合王国の関連研究機関などに出張(12月11日まで).

10月13日 第28回汽水域研究懇談会

東京大学海洋研究所助手・仲岡雅裕氏が「熱帯海藻藻場においてジュゴンが海草およびベントス群集に与える影響」と題し話題提供. 参加者13名.

## 11月24日 第29回汽水域研究懇談会

島根大学生物資源科学部教授・相崎守弘教授が「貧酸素水塊とはなにか?—豊かな汽水域・中海復活への提案—」と題して話題提供し、その後「本庄工区—これからの水域利用を考える—」をめぐって討論がおこなわれた。参加者51名(内学外者35名)。

## 11月26日 第30回汽水域研究懇談会

三重大学生物資源科学部・日本学術振興会特別研究員・木村妙子氏が「コウロエンカワヒバリガイとホトトギスガイの個体群変動」と題して話題提供。

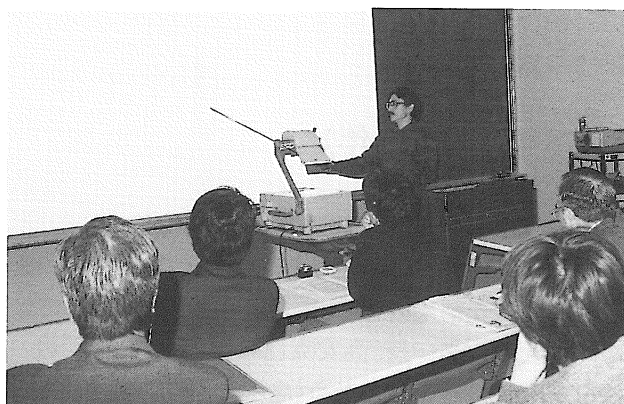


写真6. 「本庄水域と中海・宍道湖」研究発表会で発表する國井助教授(1999年1月23日)。

## 1999年(平成11年)

## 1月13日 第6回汽水域研究・山陰地域研究発表会

延べ36名の発表者により15題の研究が発表された。



写真4. 第6回汽水域研究・山陰地域研究発表会で発表する竹広助手(1999年1月13日)。



写真7. 第31回懇談会で話題提供する鹿取悦子生物資源科学部助手(1999年3月11日)。

## 1月23日 「本庄水域と中海・宍道湖」研究発表会

徳岡センター長ら延べ54名の発表者により24題の研究が発表され、その後高安教授、國井助教授の司会により総合討論がおこなわれた。参加者108名(内学外者69名)。

## 3月11日 第31回汽水域研究懇談会

島根大学生物資源科学部助手・鹿取悦子氏が「掛屋干拓地農業の現状と課題—農家の実態調査から—」と題して話題提供。参加者39名(内学外者31名)。

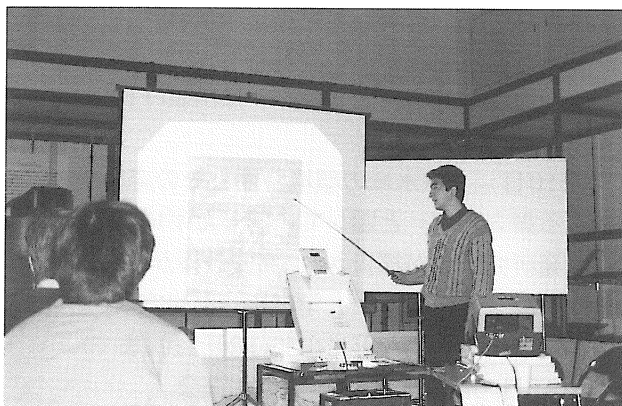


写真5. 第6回汽水域研究・山陰地域研究発表会で発表する大塚非常勤研究員(1999年1月13日)。

## 文部省科学研究費の交付

### 平成10年度科学研究費補助金

#### 科学研究費

基盤研究(A)「山陰汽水域の自然史と文化史」(継続, 研究代表者:徳岡隆夫)

基盤研究(B)「中海本庄工区の生物多様性と生態系調査」(継続, 研究代表者: 國井秀伸)

奨励研究(A)「旧石器, 縄文時代における隠岐産黒曜石の獲得と利用」(新規, 研究代表者:竹広文明)

#### 科学研究費(国際学術研究)

大学間協力研究「ヒマラヤ形成と地球環境変化—ヒマラヤ研究所設立にむけての協力研究」(研究代表者; 高安克己)

## 地方公共団体,民間企業等との 受託研究および共同研究

### 1998(平成10)年度

#### (受託研究)

(財)日本自然保護協会・(財)自然保護助成基金「中海本庄工区の種多様性に関する印刷物作成とその普及」(研究代表者; 國井秀伸)

#### (奨学寄付金)

芙蓉海洋開発(株)「汽水湖の底質改善に関わる基礎的研究」(研究代表者; 高安克己)

#### (その他)

島根県教育委員会「朝酌川改修に伴う発掘調査ほか島根県内遺跡発掘調査の調査指導」(研究担当者; 徳岡隆夫, 高安克己, 竹広文明)

島根県古代文化センター「風土記調査」(研究担当者; 高安克己)

宍道町「宍道町史編纂事業」(研究担当者; 高安克己)

米子市「米子市史編纂事業」(研究担当者; 竹広文明)

広島県蒲刈町「蒲刈町誌編纂事業」(研究担当者; 竹広文明)